

貨物会社⇒昨年以上のベアの実施を明言



貨物会社は、3月7日に開催された春闘第3回交渉で、「社員の生活を鑑み、ベアについては実施することを考えている。額については昨年以上を出せるよう社内議論を続けている。」との現時点における考え方を明らかにした。

ベアを実施することは、失われた30年を取戻す最も重要なものとなっている。23春闘で賃上げが実現してきたが、物価上昇は止まることはなく、実質賃金は下がり続け、労働者の生活は厳しさが増している。非正規雇用の拡大で賃金水準自体が低下し、まじめに働き続けても貧困から抜け出せない現状など、日本型雇用制度の限界と経済が抱える大きな矛盾が明らかとなっている。今こそ国民全体が安心して暮らし続けることができる社会を実現しなければならない。そのためにもGDPの6割近い個人消費を活性化させることが重要となっている。

貨物会社においても、昨年度は連続する赤字決算にも関わらず、平均1,000円のベアを決断している。将来にわたり人件費に影響するベアについては慎重に判断しなければならないとして、18年間に亘り「ベア・ゼロ」を続けるなど、社員と家族の生活を置き去りに、経営判断を続けてきた貨物会社においても、経済の落ち込みと社会の動向、物価上昇で実質賃金が下がり続ける現下の状況を無視できないものとなってきている。しかし、この間ベアは実施されてきているが、要求との乖離は著しく、生活改善には程遠いものでしかない。24春闘での国労要求は17,000円であり、会社説明によれば25億5千万円の前資で実現可能となっている。2018年に続き4月から6%の運賃値上げを実施するとしているが、その上乗せ分の一部で十分に賄える額である。今こそ大幅賃上げ実現をはじめ、社員と家族の生活を護ることを最優先とする判断が求められている。

！職場からの闘いで生活改善を勝ち取ろう！

3月7日、国労神奈川地区本部は上部機関、当該分会と連携し川崎車両所門前にて24春闘勝利に向けたビラ配布行動を展開した。

今春闘を勝利するには、全ての労働者との連携で闘う体制を構築し、奮起を促すことが重要となっており、会社の攻撃に負けない体制の確立で賃上げの実現は無論、日々の劣悪な職場環境、労働条件の改善を勝ち取らなければならない。

厳しい生活を改善し、生活にゆとりと安心をもたらすことが今春闘には求められている。



回答予定日 3月14日